

令和 2 年度  
交野市環境基本計画 評価・検証支援業務  
報告書

---

2020

令和 2 年 11 月  
NPO 法人木野環境

## 目次

1. 目的	1
2. 業務委託概要	1
3. 交野市環境基本計画 評価・検証	2
(1) 交野市環境基本計画の進捗状況の整理	2
1) 「交野市環境基本計画の指標と目標」の検証	2
ア. <指標 1> 緑地面積及び里山保全活動用地面積	2
イ. <指標 2> 二酸化炭素排出量	3
ウ. <指標 3> ごみ処理・再生利用率	3
エ. <指標 4> 河川水質	6
2) プロジェクトの評価	7
ア. 自然環境分野	7
イ. エコ生活分野	8
ウ. エネルギー分野	10
エ. まちづくり分野	12
(2) 交野市環境基本計画関係者ヒアリングによる課題の整理	14
1) 交野市環境基本計画推進会議（交野みどりネット） ヒアリング	14
2) 市長ヒアリング	18
3) 環境衛生課ヒアリング	19
4. 交野市環境基本計画の評価	20
(1) 交野市環境基本計画の評価	20
(2) 環境政策の動向	21

## 1. 目的

---

交野市環境基本計画策定（計画期間：平成 24(2012)年度から令和 3(2021)年度）より、8 年間の経過したことから、過去 8 年間の評価・検証を行う。

## 2. 業務委託概要

---

交野市環境基本計画の平成 24(2012)年度からの 8 年間を対象に総括を行う。その方法は、既存資料やデータによる客観的数値と、計画に関わる複数のステークホルダーのヒアリングによる定性データのふたつの柱で検証を行う。使用する統計によっては、目標年次の数字がまだ公表されていないものがあり、その場合は公表されている最新の統計を使用する。

### 3. 交野市環境基本計画 評価・検証

#### (1) 交野市環境基本計画の進捗状況の整理

##### 1) 「交野市環境基本計画の指標と目標」の検証

交野市環境基本計画で定めた4つの指標について、検証を行った。

ア. <指標1> 緑地面積及び里山保全活動用地面積

指標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑地については、市域面積(2,555ha)に対する割合を、平成22(2010)年度の実績55%に対して令和2(2020)年度に59%以上とし、それを維持します。</li> <li>・里山保全活動用地面積については平成22(2010)年度の実績57.65haに対してその対象面積を広げます。 (交野市緑の基本計画(平成23年)より)</li> </ul>

市域に占める緑地面積の割合は、平成22(2010)年の55.3%から1.9%減少し、令和元(2019)年には53.4%となった。平成22(2010)年の計画策定時よりも48.7ha減少した。減少したのは地域性緑地で、農地の減少が原因と考えられる。里山保全活動用地面積は令和元(2019)年で概ね41haで、こちらも減少傾向にある。

緑地面積 目標値及び実績値

年次		策定時		目標		現況	
		平成22年(2010)		令和2年(2020)		令和元年(2019)	
		確保面積 (ha)	市域面積に 対する割合	確保面積 (ha)	市域面積に 対する割合	確保面積 (ha)	市域面積に 対する割合
施設緑地 <sup>1</sup>	都市公園 や公共施設 緑地	67.8	2.6%	104.0	4.1%	67.9	2.6%
地域性 緑地 <sup>2</sup>	法又は条 例による もの	1,346.7	52.7%	1,417.3	55.5%	1,297.3	50.7%
合計		1,414.0	55.3%	1,521.3	59.5%	1,365.3	53.4%

<sup>1</sup> 公共施設として管理されている都市公園や公園緑地に準ずる機能を有する公共施設をいう。(都市公園、ちびっこ広場、学校等)

<sup>2</sup> 法律などにより土地利用を規制することによって良好な自然的環境を保全するもので近郊緑地保全区域や国定公園、農空間保全地域、生産緑地区などをいう。(自然公園、農地、保安林等)

イ. <指標 2> 二酸化炭素排出量

指標  
 平成 25 (2013) 年度の排出量 354kt-CO<sub>2</sub><sup>3</sup>に対して、令和 3 (2021) 年度に 12.2%削減します。

平成 25(2013)年度からの CO<sub>2</sub> 排出量は減少しているものの、平成 29(2017)年度の段階では目標値の 12.2%削減にはまだ達していない。交野市では平成 29(2017)年度に前年度と比較して、産業部門と民生部門で CO<sub>2</sub> 排出量が減少した。全国と交野市の CO<sub>2</sub> 削減率と比較すると、交野市の削減率は全国を下回っていることがわかる。

二酸化炭素排出量 (単位：交野市 1,000tCO<sub>2</sub>、全国 百万 tCO<sub>2</sub>換算)

年度	交野市						全国	
	産業	民生	運輸	一般廃棄物	合計	削減率	合計	削減率
平成 23(2011)年度	67	174	87	7	335		1,267	
平成 24(2012)年度	67	186	87	6	346		1,308	
平成 25(2013)年度	63	191	85	7	348	基準年	1,317	基準年
平成 26(2014)年度	71	186	82	6	345	0.6%	1,267	3.8%
平成 27(2015)年度	70	183	82	6	341	1.9%	1,227	6.8%
平成 28(2016)年度	77	178	81	8	345	0.8%	1,208	8.3%
平成 29(2017)年度	72	165	80	6	324	6.9%	1,190	9.6%

交野市：部門別 CO<sub>2</sub> 排出量の現況推計（環境省） 全国：温室効果ガス排出量の算定結果（環境省）

ウ. <指標 3> ごみ処理・再生利用率

指標  
**【家庭系】** 1日ひとりあたりのごみ処理量を平成 18 (2006) 年度の 600.5g に対して、平成 29 (2017) 年度に 15%削減(510.4g)し、これを維持します。  
**【事業系】** 平成 18 (2006) 年度のごみ処理量 (5,208t/年) に対して平成 29 (2017) 年度に 22%削減 (4,062t/年) し、これを維持します。  
**【再利用率】** 平成 18(2006)年度の 10.7%に対して、平成 29(2017)年度に 25%とし、これを維持します。  
 (交野市一般廃棄物 (ごみ) 処理基本計画 (平成 23 年度) より

<sup>3</sup> 「部門別 CO<sub>2</sub> 排出量の現況推計」(環境省) が令和 2 (2020) 年 3 月に平成 30 (2018) 年度の総合エネルギー統計及び都道府県別エネルギー消費統計の改訂・更新に伴い、現況推計ファイルに対して遡及修正を行った。そのため、環境基本計画策定時と現在公表されている二酸化炭素排出量の数値が異なる。

【家庭系】1日ひとりあたりのごみ処理量は、目標年次の平成29(2017)年度には567.8g、平成30年度は559.4gで目標値の510.4gには届かなかった。

【事業系】事業系のごみ処理量は、目標年次の平成29(2017)年度には3,877tで、平成18(2006)年と比較して削減率は25.6%と、目標を達成することができた。

【再生利用率】再生利用率は、増加と減少を繰り返し、目標年次の平成29(2017)年度には16.4%だった。計画期間で最も再生利用率が高かったのは平成27(2015)年の19.2%だったが、目標の25%には届かなかった。

#### 家庭系ごみ処理量

年度	処理量(t)	年度末人口	ひとり当たり(kg)	1日当たり(g)	削減率
平成24(2012)年度	16,944	78,051	217.09	594.8	0.96%
平成25(2013)年度	17,130	78,114	219.29	600.8	-0.05%
平成26(2014)年度	16,866	77,928	216.43	593.0	1.26%
平成27(2015)年度	16,993	77,943	218.02	595.7	0.53%
平成28(2016)年度	16,783	77,913	215.41	590.2	1.72%
平成29(2017)年度	16,127	77,816	207.25	567.8	5.45%
平成30(2018)年度	15,892	77,834	204.18	559.4	6.85%

#### 事業系ごみ処理量

年度	処理量(t)	削減率
平成24(2012)年度	4,430	14.9%
平成25(2013)年度	4,063	22.0%
平成26(2014)年度	3,997	23.3%
平成27(2015)年度	4,048	22.3%
平成28(2016)年度	3,807	26.9%
平成29(2017)年度	3,877	25.6%
平成30(2018)年度	3,869	25.7%

#### 再生利用率

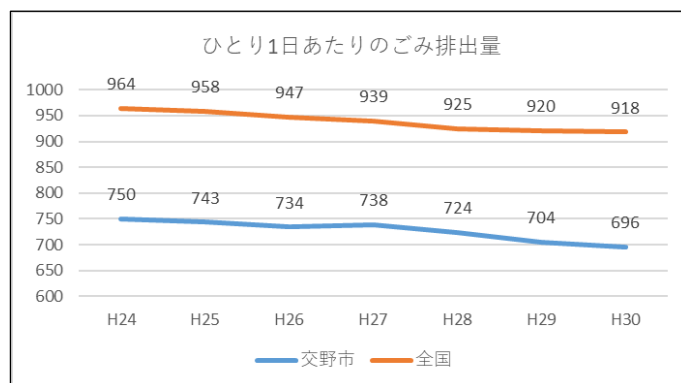
年度	家庭系量(t)	事業系量	再生利用量(t)	再生利用率
平成24(2012)年度	16,944	4,430	3,769	17.7%
平成25(2013)年度	17,130	4,063	4,027	19.1%
平成26(2014)年度	16,866	3,997	3,907	18.7%
平成27(2015)年度	16,993	4,048	4,039	19.2%
平成28(2016)年度	16,783	3,807	3,794	18.4%

平成 29(2017)年度	16,127	3,877	3,276	16.4%
平成 30(2018)年度	15,892	3,869	3,132	15.8%

ひとり1日あたりのごみ排出量を全国平均値と比較するため、家庭系ごみ排出量と、事業系ごみ排出量の合計を人口で除して比較すると、交野市が全国平均を大きく下回っているのがわかる。

ひとり1日あたりのごみ排出量(g)

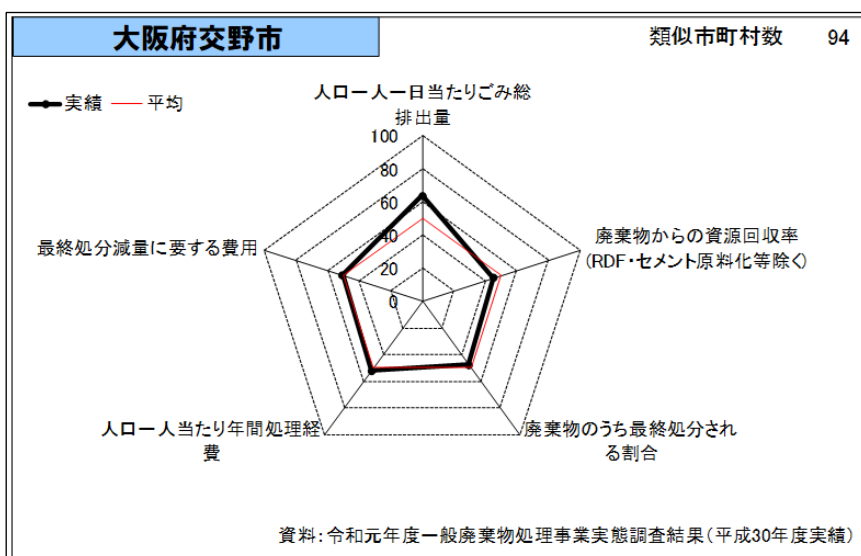
年度	交野市	全国
平成 24(2012)年度	750	964
平成 25(2013)年度	743	958
平成 26(2014)年度	734	947
平成 27(2015)年度	738	939
平成 28(2016)年度	724	925
平成 29(2017)年度	704	920
平成 30(2018)年度	696	918



交野市：交野市一般廃棄物処理基本計画より計算

全国：一般廃棄物処理事業実態調査（環境省）

交野市と人口や産業形態が類似している全国94の自治体とを比較したごみ処理に関する偏差値<sup>4</sup>は、「ひとり一日あたりのごみ排出量」は高い偏差値で平均を上回っている。その他の項目については、ほぼ平均値であった。



<sup>4</sup> 市町村における循環型社会づくりに向けた一般廃棄物処理システムの指針（環境省）参照

エ. <指標 4> 河川水質

指標

市内の主要河川の水質を、天野川の環境保全目標値（BODが3mg/l）相当にします。

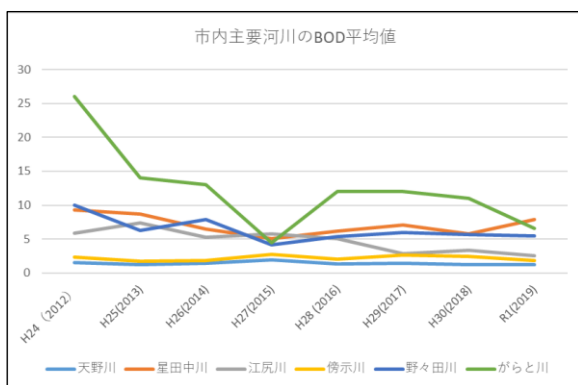
天野川のBOD値は3mg/lを常に下回っている。星田中川、野々田川、がらと川は年によって、最小値と最大値に開きがあることが特徴である。また本計画の目標は、天野川、傍示川では達成したが、それ以外の4河川では平均値が目標としている基準値3mg/lを上回っていることが多かった。

交野市域 主要河川のBOD値

(単位：mg/l)

	平成 24(2012)年度		平成 25(2013) 年度		平成 26(2014) 年度		平成 27(2015)年度	
	最小値~最大値	平均値	最小値~最大値	平均値	最小値~最大値	平均値	最小値~最大値	平均値
天野川	1.0 - 2.5	1.5	0.7 - 1.9	1.2	0.8 - 3.0	1.4	1.3 - 2.7	1.9
星田中川	4.8- 14.0	9.3	2.3 - 20.0	8.7	3.4 - 8.2	6.5	4.0 - 6.7	5.1
江尻川	1.1 - 9.0	5.9	3.0 - 16.0	7.4	3.9 - 8.6	5.3	2.1 - 9.6	5.8
傍示川	1.2 - 4.1	2.3	0.8 - 2.8	1.7	1.6 - 2.1	1.8	2.4 - 3.3	2.7
野々田川	4.7 - 13.0	10.0	2.2 - 12.0	6.3	2.8 - 13.0	7.9	2.8 - 5.8	4.2
がらと川	9.5 - 52.0	26.0	3.2 - 26.0	14.0	4.4 - 22.0	13.0	3.0 - 5.6	4.5

	平成 28 (2016) 年度		平成 29(2017) 年度		平成 30(2018) 年度		令和元(2019) 年度	
	最小値~最大値	平均値	最小値~最大値	平均値	最小値~最大値	平均値	最小値~最大値	平均値
天野川	0.7 - 1.8	1.3	0.6 - 2.9	1.4	0.5 - 1.6	1.2	0.5-2.0	1.2
星田中川	2.9 - 10.0	6.2	3.5 - 11.0	7.1	3.6 - 8.8	5.8	3.0-11	7.9
江尻川	2.1 - 10.0	5.1	2.0 - 3.2	2.8	2.9 - 4.1	3.4	1.7-4.0	2.5
傍示川	1.4 - 2.8	2.0	2.0 - 3.6	2.6	1.4 - 3.7	2.4	0.8-2.6	1.8
野々田川	2.3 - 10.0	5.4	2.3 - 11.0	6.0	2.2 - 11.0	5.7	1.8-14	5.5
がらと川	3.8 - 27.0	12.0	3.7 - 27.0	12.0	3.2 - 20.0	11.0	2.4-17	6.6





## 2) プロジェクトの評価

### ア. 自然環境分野

自然環境分野では4つのプロジェクトを行ってきた。「里山を知ろう・里山大好き」で里山を座学で学び、「実践！里山保全活動」で里山保全活動を実践していくことを計画した。交野市内には里山に関わる団体が多く存在し、座学、実践活動ともに目標を大きく上回る参加者があった。

「山の持ち主と活動団体の縁結び」については、公有地と私有地の8か所で山の持ち主と活動団体を結ぶことができた。

「生きものいっぱい！豊かな川づくり」は、平成30（2018）年度より大阪府が管理する河川の竹林整備に着手している。また、市域各所の生物・植物調査を行うなど、今後に生かせる活動が行われている。

#### 自然環境分野 プロジェクト一覧

プロジェクト名 及び 評価の基準		結果	達成度
1	里山を知ろう・里山大好き		
	イベント・学習会・調査等への参加者数が累計5,000人以上になる。	6,342人	○
2	実践！里山保全活動		
	里山保全活動への参加者数が累計5,000人以上になる。	11,156人	○
3	山の持ち主と活動団体の縁結び		
	土地所有者と里山保全活動団体をつないだ実績をつくる。	8件	○
4	生きものいっぱい！豊かな川づくり		
	初回の調査時よりも在来の動植物の種類と生息数が増えている。	調査会19回	△

#### 講座等参加人数

(単位：人)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
講座・観察会	0	150	75	116	109	167	75	65
未来の里づくり講座	0	0	179	135	126	37	32	11
調査会（しらべたい）							114	121
ウォークラリー	0	81	200	100	209	249	315	299
ふれあいセンター講座	314	313	367	304	283	282	154	135
その他の環境講座	215	281	160	127	124	74	147	97
年度計	529	825	981	782	851	809	837	728
のべ参加者（人）	529	1,354	2,335	3,117	3,968	4,777	5,614	6,342

里山保全活動参加者数

(単位：人)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
みどりネット	0	0	57	166	331	177	217	272
里山ゆうゆう会	953	962	928	903	940	1,053	952	1,055
都市近郊の森を育てる会	80	100	180	180	180	160	160	160
その他の活動	100	122	120	118	121	256	139	14
年度計	1,133	1,184	1,285	1,367	1,572	1,646	1,468	1,501
のべ参加者（人）	1,133	2,317	3,602	4,969	6,541	8,187	9,655	11,156

山の持ち主と活動団体の縁結び（里山保全活動団体活動例）

区分	活動場所	活動団体
公有地等	私市4丁目	交野みどりネット
公有地等	星田6丁目	交野みどりネット
私有地	大字私市	交野みどりネット
公有地等	南星台2丁目	NPO 法人樹木・環境ネットワーク協会
公有地等	大字森	NPO 法人樹木・環境ネットワーク協会
私有地	大字森	森区山地保存会
私有地	大字倉治	交野里山ゆうゆう会
公有地等	大字倉治	都市近郊の森を育てる会

イ. エコ生活分野

エコ生活分野では、各分野共通プロジェクトを含む6つのプロジェクトを担当して活動をしてきた。「やる気がでるエネルギーダイエット」では省エネ講座、みどりのカーテン大作戦、エコなクッキングの3つの講座を毎年開催し、それぞれ多くの参加者があり、活動も地域に定着してきた。各分野共通プロジェクト「めざせ！かたののエコ達人」では、計画推進の担い手を集め育成することを目的として連続講座を開催した。参加者は一定数いるものの、計画年度後半になるにつれ参加者は減少傾向になった。

「売ってエコ 買ってエコ」「生ごみをたい肥化しよう」など、ごみの排出抑制に繋げるためのプロジェクトでは、プロジェクト内容に沿った活動は十分ではないが、様々な講座を通じて啓発活動が展開されていた。

交野市の家庭系ごみ処理量は平成27（2015）年度以降減少傾向にあり、減少の理由については様々なごみ減量啓発活動、環境学習などの結果と分析されている<sup>5</sup>。

<sup>5</sup> 交野市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画 参照

エコ生活分野 プロジェクト一覧

プロジェクト名 及び 評価の基準	結果	達成度
1 やる気のでるエネルギーダイエット		
省エネに取り組み、実践する人が増える	講座 900 人	○
2 売ってエコ 買ってエコ		
環境に配慮した店が市内に半分以上ある	—	×
人口1人あたりのごみの量が年々減少している	—	○
3 「かたのエコ達人への道」攻略マニュアル		
マニュアルができている	一部完成	△
マニュアルが講座などで活用されている。	—	×
4 生ごみをたい肥化しよう		
家庭でのごみの量が減っている	—	○
生ごみ堆肥を利用した農産物が生産されている	—	×
5 優先共同プロジェクト めざせ！かたののエコ達人		
受講者数、かたのエコ達人の人数が年々増えている	減少傾向	×
6 環境学習の場をつくろう！		
「かたのエコ達人」の活動の場、環境について学べる場ができている。	研修実施	○

家庭系ごみ処理量（再掲）

年度	処理量 (t)	年度末人口 (人)	ひとり当たり (kg)	1日当たり (g)	削減率
平成26年度	16,866	77,928	216.43	592.96	1.25%
平成27年度	16,993	77,943	218.02	595.68	0.80%
平成28年度	16,783	77,913	215.41	590.16	1.72%
平成29年度	16,127	77,816	207.25	567.80	5.45%
平成30年度	15,892	77,834	204.18	559.39	6.85%

処理量：交野市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画 人口：住民基本台帳

講座のべ参加人数

(単位：人)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
エネルギーダイエット							
省エネ講座	101	34	41	46	29	26	8
みどりのカーテン大作戦	47	79		40	62	57	56
エコなクッキング	118	34		36	48	29	32
合計	266	147	41	122	139	112	96
累計		413	454	576	715	827	923
めざせ！かたのエコ達人							
エコ達人連続講座			176				
交野みどりネット環境講座				156	68		
施設見学会						62	37
合計	0	0	176	156	68	62	37
累計		0	176	332	400	462	499
生ごみ堆肥化事業							
生ごみ堆肥化	37						
ごみについて		87				21	
合計	37	87	0	0	0	21	0
累計		124	124	124	124	145	145
環境学習の場をつくろう！							
見学研修			7				
養成講座							6
合計	0	0	7	0	0	0	6
累計		0	7	7	7	7	13

ウ. エネルギー分野

エネルギー分野では、省エネルギーと再生可能エネルギーの普及を目的に3つのプロジェクトを推進してきた。「そらいけ！ソーラーパネル」プロジェクトに関しては、太陽光パネルの設置を推進するための講座やワークショップが開催され、一定の市民参加が得られている。しかし、評価の基準とする太陽光パネルを設置軒数は、平成26(2014)年度から約600軒増加して1,900軒となったが、目標達成には至っていない。

「星のまち☆エコドライブ」については、エコドライブ講習を、自動車教習所やJAF(日本自動車連盟)から講師を招き、ドライブシュミレーターの体験講座を行うなど省エネ行動に繋がる活動が積み重ねられている。

「風を活かしたまちづくり」に関しては、市域の天然の涼み処、陽だまり処を発信するこ

とで、その居場所づくりの活用からエネルギー負荷を抑制し省エネに繋げることを目的としていたが、発信は限定的であった。

エネルギー分野 プロジェクト一覧

プロジェクト名 及び 評価の基準		結果	達成度
1	そらいけ！ソーラーパネル		
	相談件数・問い合わせが年々増えている	H29まで増	△
	市内の多くの住宅で太陽光発電設備が設置されるようになる。(全戸数の1割程度、約3,000軒が設置している。)	H31で約1,900軒	×
2	星のまち☆エコドライブ		
	エコドライブ実践者・取り組み事業者数が毎年増えている。	少しずつ増	○
3	風を活かしたまちづくり		
	「天然の涼み処、陽だまり処」の利用者数(市民と観光客)が年々増えている	酷暑で見つけにくい	—
	ワークショップ参加者数、「天然の涼み処(陽だまり処)」の指定数が年々増えている。	発信が限定的	×

太陽光関連講座

(単位：人)

	H24/25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
参加者(人)	16	34	42	14	43	19	18
実施回数(回)	1	3	2	1	3	1	1
のべ参加者(人)	16	50	92	106	149	168	186
のべ実践回数(回)	3	4	6	7	10	12	14

太陽光発電導入状況

		H26	H27	H28	H29	H30	H31
10kw 未満	件数	1,208	1,378	1,477	1,584	1,684	1,774
	新規	526	696	795	902	1,002	1,092
	移行	682	682	682	682	682	682
	出力 (kw)	4,509	5,174	5,588	6,042	6,442	6,853
	新規	2,122	2,786	3,198	3,652	4,049	4,458
	移行	2,387	2,388	2,390	2,390	2,393	2,395
10kw 以上	件数	69	91	105	118	129	134
	新規	67	89	103	116	127	132
	移行	2	2	2	2	2	2
	出力 (kw)	1,107	1,771	1,964	2,234	2,427	2,500
	新規	1,059	1,723	1,916	2,186	2,379	2,452
	移行	48	48	48	48	48	48
合計	件数	1,277	1,469	1,582	1,702	1,813	1,908
	出力 (kw)	5,616	6,945	7,552	8,276	8,869	9,353

出典：経済産業省 固定買取制度公表資料 各年度3月データより抜粋

エコドライブ講座参加者

(単位：人)

	H24・25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
参加者 (人)	90	53	30	92	12	46	20
実施回数 (回)	3	1	2	3	1	2	2
のべ参加者 (人)	0	143	173	265	277	323	343
のべ実践回数 (回)	3	4	6	9	10	12	14

エ. まちづくり分野

まちづくり分野では当初掲げていたプロジェクトを平成29(2017)年度の中間見直しにおいて、各プロジェクトの目的を公共交通の利用促進と自転車の利用促進によるCO<sub>2</sub>の削減としている。

取り組み内容は自転車の利用促進に注力し、交野市の資源である自然や名産の再発見をめぐる自転車によるツアーに取り組んできた。市民へ環境にやさしい移動手段として選択を促すことや交通マナーの向上に加えて、健康に貢献できるなどの付加価値を含め啓発を行っている。

評価結果としては、各プロジェクトの評価基準に基づく評価は厳しい状況にあるが、中間見直し以降、分野目的を絞り込むことで特化した事業展開により市民啓発に繋がったと推

測できる。

まちづくり分野 プロジェクト一覧

プロジェクト名 及び 評価の基準	結果	達成度
1 自転車の似合うまちかたの		
誰もが自転車を利用しやすい環境になり、自転車の利用頻度が増えている	—	△
レンタサイクルの利用者が増えている	—	×
2 自転車のマナー向上大作戦		
講習会の参加者数がのべ1万人以上になる	200人	×
3 かたの満喫ツアー		
ツアーの実施回数、参加者数が年々増加している。	H29から増	○
4 誰もが利用しやすいバスを走らそう！		
公共交通利用者数が増えている。	—	△
5 とかいなかで農とふれあおう！		
農にふれあいたい人とのイベントが開催されている。	開催済	○
6 地域ぐるみ エコで子育て・親育て		
本プロジェクトが各地域で展開され、各地域の特徴を生かしたまちづくりができています。	—	△

自転車のマナー向上大作戦参加者数

	H24・25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
参加者（人）	165		27	20		17	
実施回数（回）	3		1	1		1	
のべ参加者（人）	165	165	192	212	212	229	229
のべ実践回数（回）	3	3	4	5	5	6	6

自転車ツアー参加者数

	H24・25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
参加者（人）					7	30	72
実施回数（回）					1	1	3
のべ参加者（人）		0	0	0	7	37	109
のべ実践回数（回）					1	2	5

## (2) 交野市環境基本計画関係者ヒアリングによる課題の整理

### 1) 交野市環境基本計画推進会議（交野みどりネット） ヒアリング

交野市環境基本計画推進会議（以下、みどりネット）が8年間取り組んだ具体的事業内容や活動を通じて感じ取ったことについて、関係者にヒアリングを行った。

日 時	令和2年10月27日（火） 10:00～11:00
場 所	第二別館会議室
分 野	まりづくり分野
参加者	交野みどりネット会員 4名 / NPO 法人 木野環境 2名
プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車の似合うまち・かたの</li> <li>・自転車のマナー向上大作戦</li> <li>・かたの満喫エコツアー</li> <li>・誰もが利用しやすいバスを走らそう！</li> <li>・とかいなかで農とふれあおう！</li> <li>・地域ぐるみエコで子育て・親育て</li> </ul>
主な評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車の利用促進により CO<sub>2</sub> の削減に取り組む市民が増えている。</li> <li>・自転車の利用頻度が増えている。</li> <li>・公共交通利用者が増えている。</li> <li>・講習会等の参加者が増えている。</li> </ul>
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内各所にレンタサイクルの利用拠点を整備することで、クリーンな移動手段の促進に繋げることを目標としていた。</li> <li>・CO<sub>2</sub> の排出抑制に繋がる自転車の利用促進と併せて、自転車専用レーン等通称矢羽根の表示が推進されることで、乗りやすい環境に繋がらなかった。</li> <li>・自転車の安全教室から啓発を行った。</li> <li>・地場資源である自然や名産の再発見をめぐる自転車によるツアーを企画した。この企画を通じて自転車の交通マナー・ルールを学び、移動手段として自転車の選択は CO<sub>2</sub> の排出抑制に繋がる啓発を行った。参加者から好評を得ている。</li> <li>・令和2（2020）年度は新型コロナウイルス感染症感染防止の観点から当初予定していた体験型講座からポスター掲示による啓発に変更するなどの工夫を行った。</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地場資源や地域特性イベントである芋掘りや田植えとコラボでさらに啓発を充実したい。</li> <li>・行政と市民が協力し、企画と事業展開を行う体制が整っていない。</li> </ul>



	・計画を推進するのが行政の役割で、そのすそ野を広げる活動を市民団体が担う構図が確立できていない。
--	--

日 時	令和2年10月27日(火) 11:00~12:00
場 所	第二別館会議室
分 野	エネルギー分野
参加者	交野みどりネット会員 3名 / NPO法人 木野環境 2名
プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そらいけ！ソーラーパネル</li> <li>・星のまち☆エコドライブ</li> <li>・風を活かしたまちづくり</li> </ul>
主な評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・太陽光発電設備が3,000軒設置されている。</li> <li>・エコドライブ実践者が増えている。</li> <li>・ワークショップ参加者が増えている。</li> </ul>
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生を対象に工作キットを活用した太陽光パネルの講座を行った。</li> <li>・市民発電所の可能性を模索した。また、滋賀県湖南市等先進事例への見学を行ったが、具体化までに至らなかった。</li> <li>・エコドライブ講習会では、自動車教習所やJAF(日本自動車連盟)から講師を招き、ドライブシュミレーターを活用する他、安全運転について大阪府交野警察署の協力を得た。併せて、エコカー、次世代自動車の普及啓発も行った。</li> <li>・講座等は概ね好評であった。</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・太陽光パネルの設置に係るFITの終了を受け電力の売電から自家消費が主流となる。今後は、災害時に有効な蓄電池との併用を啓発することが必要である。</li> <li>・エコドライブに加えて、自動車の性能が向上していることから、エコカー等の次世代自動車の普及啓発が重要である。</li> <li>・2050年温室効果ガス排出ゼロを目指すための行動。</li> <li>・環境問題に対する危機感が感じられない。</li> <li>・行政の役割と連携体制の確立が必要である。</li> </ul>

日 時	令和2年10月27日(火) 13:00~14:00
場 所	第二別館会議室
分 野	自然環境分野
参加者	交野みどりネット会員 3名 / NPO法人 木野環境 2名
プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・里山を知ろう・里山大好き</li> <li>・実践！里山保全活動</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山の持ち主と活動団体の縁結び</li> <li>・生きものいっぱい！豊かな川づくり</li> </ul>
主な評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント・学習会・調査等の参加者が5,000人以上</li> <li>・里山保全活動への参加者が5,000人以上</li> <li>・土地所有者と里山保全活動団体をつなぐ実績をつくる</li> </ul>
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・座学と実践活動を通じて里山保全の啓発を展開した。</li> <li>・実践活動では市内3ヶ所の竹林整備を手掛けた。</li> <li>・活動は月に3回定期的に開催した。</li> <li>・小学生を対象とした環境教室で竹伐り体験と里山についての学習機会を創出した。</li> <li>・里山保全団体との交流を図った。</li> <li>・季節に応じた観察会は常に好評で参加者も多数であった。</li> <li>・定期的な調査活動を企画し、市民の参加を得られている。また、その活動から市内各地の生物や植物の生息状況が確認できている。</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次の担い手、人材育成が課題である。</li> <li>・竹林整備を行うが、その後の展望が明確でない。</li> <li>・山地所有者と里山保全団体の結び付けには行政の仲介が重要である。</li> <li>・次の計画では最終目的が明確となるよう、変更が必要である。</li> <li>・次の計画では市の行政計画や事業計画に基づく様々な企画を通じて市民啓発ができることが望ましい。</li> </ul>

日 時	令和2年10月27日（火） 14:00～15:00
場 所	第二別館会議室
分 野	エコ生活分野
参加者	交野みどりネット会員 5名 / NPO法人 木野環境 2名
プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生ごみを堆肥化しよう</li> <li>・やる気がでるエネルギーダイエット</li> <li>・売ってエコ 買ってエコ</li> <li>・めざせ！かたのエコ達人</li> <li>・「かたのエコ達人への道」攻略マニュアル</li> <li>・環境学習の場をつくろう！</li> </ul>
主な評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみの量が減っている。</li> <li>・省エネの取り組みを実践する人が増えている。</li> <li>・講座等の参加者が増えている。</li> <li>・マニュアルができている。</li> <li>・環境を学べる場がある。</li> </ul>

<p>内 容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年、夏・冬に実施するエコクッキング講座では、調理を通じて地産地消・保温調理など省エネの啓発を行うと共に、調理に伴う生ごみを計量するなどごみの減量化を意識した啓発を行った。</li> <li>・講座への市民の関心度は高く、常に定員に達し好評を得ている。</li> <li>・ゴーヤによる緑のカーテンの普及活動を通じて、地球温暖化防止に資する啓発を行った。活動では、緑のカーテンの設置効果を学び、実践し、座談会と写真展を通じて、その効果等を市民間で共有した。</li> <li>・緑のカーテン大作戦は毎年の恒例事業として定着し、公共施設をはじめ、一般家庭においても実施されエネルギーの使用抑制に寄与した。</li> <li>・環境講座として、大阪湾広域臨海環境整備センターの見学会やグリーンコンシューマー、雨水利用、ごみの堆肥化などの勉強会を行った。</li> </ul>
<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の認知度を上げることに苦慮した。</li> <li>・環境部局以外の行政各部局との連携が進まず企画が限定的となった。</li> <li>・費用や箱ものを必要とするプロジェクトを市民提案で実現することに限界がある。</li> <li>・地球環境を考えて生活する人を増やす必要がある。</li> </ul>

<p>日 時</p>	<p>令和2年10月27日(火) 15:00~16:00</p>
<p>場 所</p>	<p>第二別館会議室</p>
<p>分 野</p>	<p>全体</p>
<p>参加者</p>	<p>交野みどりネット会員 4名 / NPO法人 木野環境 2名</p>
<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政が年間スケジュール、カリキュラムを企画する。その内の講座を市民団体が担う関係が望ましい。</li> <li>・定年延長が影響しているのか、人材確保が難しい。</li> <li>・分野、部会の連携が必要である。</li> <li>・市民・事業者・行政の役割が明確でなく、評価方法も明瞭でない。</li> <li>・複数ある市民団体のなかには、連携を望まない場合もある。</li> <li>・市民協働により、活動しているが制約が多い。</li> <li>・行政ができないことは、市民にもできない。</li> <li>・現計画は、市民提案のプロジェクトの集合体として立案され、そのプロジェクトの推進を市民団体に委ねられ、それを行政が支えるような計画であったように感じる。次期計画は、行政がビジョンを示し、そのビジョン達成のために市民はどのような行動が必要となるのを示した計画が良いのではないか。</li> <li>・高齢化社会のなか、市民が参加しやすいイベントが必要である。</li> <li>・2050年度カーボンゼロを計画に盛り込むべきである。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトリーダーは、企画力・調整能力等マネジメント能力が必要である。</li> <li>・行政事務局担当者とは連携が図れている。</li> <li>・事業を担う市民団体と行政の事務局間の連携は不可欠である。</li> <li>・現計画は4つの分野から構成され、当初より4部会が各々活動してきた。専属的に企画・活動ができる反面、他分野の活動等の把握に欠ける部分も見受けられたことから、全体をプロデュースする部門や方法について検討の余地があった。</li> </ul>
--	--

## 2) 市長ヒアリング

現計画の評価検証状況の中間報告として、課題について意見交換を行った。

日時	令和2年10月30日(金) 15:00~16:00
場所	市長室
報告者	環境部 担当理事、部長、次長 NPO 法人 木野環境
内容	<p>評価検証中間報告</p> <p><b>【現計画の問題点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画策定プロセスの検討</li> <li>・事業推進手法の検討</li> <li>・行政・市民・事業者の役割が不明確</li> <li>・進捗評価方法が不明瞭</li> </ul> <p><b>【次期計画策定検討ポイント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上位計画との整合</li> <li>・温暖化対策実行計画との関係</li> <li>・長期的(2050年)な視点、中期(2030年)までの視点</li> <li>・行政・市民・事業者の役割</li> </ul> <p><b>【次期計画策定方法アプローチ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・策定ワーキンググループの検討</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境マネジメントシステム監査との連携の検討</li> </ul> <p>以上、中間報告として課題等について報告を行った。</p> <p><b>【市長意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球温暖化防止対策は喫緊の問題であり、その取り巻く環境も大きな転換期を迎えている。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の評価検証結果を踏まえ、次期計画に活かすことが必要である。</li> <li>・中・長期的なビジョンとして、カーボンニュートラルやSDGsとの関連等国際的な枠組みについて示すことも重要となる。</li> <li>・交野市域の約半分が山地であり、里山における生物多様性に資する保全や、防災対策の視点の整備も必要となるが、整備の方法、整備の担い手、財源を含めて検討が求められている。</li> </ul>
--	--

### 3) 環境衛生課ヒアリング

担当課である環境衛生課ヒアリングを行い、現行計画に書かれているプロジェクトの進捗状況、第2次計画策定に向けての留意点を確認した。

日時	令和2年10月30日(火) 16:00~17:00
場所	第二別館会議室
参加者	環境衛生課職員 4名 / NPO法人 木野環境 2名
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当課として、夏休み環境教室、環境講座、クールチョイス普及啓発等を通じて、環境負荷低減行動を促す事業展開を行ってきた。</li> <li>・10年間の指標と目標に対するアクションプラン、各プロジェクトの評価基準との連動について詳細に示す必要があった。</li> <li>・計画策定時より各プロジェクトの推進を市民団体に委ねる手法で事業が実施されてきた。市民団体との役割分担を当初の委託契約から協働協定書の締結に変更することでプロジェクトの推進に係る役割分担を明確にされた。</li> <li>・事業実施に必要な予算の確保や庁内各部署との連携について、行政・市民・事業者がビジョンとその達成のために担う役割を共有することが重要である。</li> <li>・プロジェクトの推進に携わったみどりネットの皆さんは献身的かつ、精力的に事業に取り組んでいた。</li> <li>・様々なステークホルダーが計画推進に関わってくことを想定した計画だったが、実際の計画は参画が限定的だった。</li> <li>・交野みどりネットとの連携は円滑であった。内容は情報共有や進行管理のための会議、イベント調整、情報発信、庁内連携調整を行った。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画の4つの指標と、プロジェクトの評価基準が必ずしも連動していなかった。</li> <li>・今後、環境基本計画とEMSのCO<sub>2</sub>排出量の目標値は整合性をとっていくことが必要になる。</li> <li>・庁内の他の部署、市内の関係者にどう関わってもらうか、検討する。</li> </ul>

## 4. 交野市環境基本計画の評価

### (1) 交野市環境基本計画の評価

交野市環境基本計画は35名の市民委員と行政委員が、36回の委員会で交野市の現状と10年後のビジョンについての議論を経て策定された計画である。多くの人が計画策定から関わることで、計画を市民・事業者・行政の3者で進めていくことを目的としていたことは先進的な取り組みだったと思われる。計画は4分野から構成されており、各分野のプロジェクトでは準備、普及啓発、発展と各段階でプロジェクトをどう進めていくかの手順まで策定時に議論し、計画に記載した。しかし、策定後、責任をもって計画推進に関わった人が限定的だったことは策定時の想定とは異なり、この計画策定・推進方法の難しさとなった。

計画の指標は、市内の緑化面積、CO<sub>2</sub>排出量、廃棄物排出量、市内河川の水質と、自治体レベルで指標を管理でき、重要とされる環境課題の指標4つが選定され、適切に数値の管理もされていた。ただこの4つの指標と4分野のプロジェクトの関連性が決して高くなく、プロジェクトを行うことが、計画の目標達成に寄与するといった枠組みの方がわかりやすかったのではないかと考える。

各プロジェクトの推進状況は行政・市民・事業者の役割分担が明確に記されていなかったことから、推進結果に影響が見受けられた。市民活動としてできること、事業者が責任を持つこと、行政が担う役割の根拠を明記しておくことも重要であった。しかし、講座や実践活動を通じて、広く市民に地球規模の環境問題から身近な環境保全に係る普及啓発が展開されたことで、市民の行動変容に繋がったと推測できる。

この様なことから、計画に掲げる目的、目標とその達成に資するプロジェクトの効果が、明確に連動する仕組みづくり、すなわち、計画体系そのものに工夫が必要であったと考えられる。今後は、上位計画にあたる国や大阪府の環境基本計画の枠組みや、指標等を参考にすることが望まれる。

## (2) 環境政策の動向

最後に参考として、平成24(2012)年以降の、環境に関連する分野での主な出来事と、交野市環境基本計画との関係をまとめる。これも第2次計画の検討材料としたい。

年	出来事	世界	国	交野
H24 (2012)	交野市環境基本計画 策定			○
H27 (2015)	国連持続可能な開発サミットにてSDGs採択	○		
	COP21にてパリ協定採択	○		
H28 (2016)	電力の小売自由化がスタート		○	
	地球温暖化対策計画		○	
H30 (2018)	一般廃棄物(生活排水)処理基本計画			○
	第4次 循環型社会形成推進基本計画 閣議決定		○	
	気候変動適応計画 閣議決定		○	
R1 (2019)	交野市 COOL CHOICE 宣言			○
	交野市 プラスチックごみゼロ宣言			○
	プラスチック資源循環戦略		○	
	食品ロスの削減の推進に関する法律		○	
R2 (2020)	交野市 一般廃棄物(ごみ)処理基本計画			○
	菅総理が2050年までに温室効果ガス実質ゼロを宣言		○	

ここ10年の傾向を見ると、気候変動への危機感が高まっている。令和元(2019)年に欧州ではClimate Crisis(気候危機)という言葉が高い頻度で使われるようになり、日本でも「気候非常事態宣言」「カーボンゼロシティ宣言」をする自治体が増加したり、企業が再生可能エネルギー100%を目指す「RE100」の宣言をするようになったりと、様々な主体が温室効果ガスの削減を目指す宣言をするようになった。温室効果ガスの排出削減、再生可能エネルギー導入促進に取り組む一方で、気候変動がおきている社会でどう暮らしていくかを地域ごとに考える気候変動適応策を推進していくという方針が国から示された。交野市で取り組む地球温暖化対策や再生可能エネルギーの導入については、市は令和元(2019)年にCOOL CHOICE宣言を行い、普及啓発事業を行ってきた。計画の中では主にエネルギー分野・エコ生活分野・まちづくり分野の中で普及啓発セミナーや参加型のワークショップが行われ、多くの参加者を得てきた。2050年に温室効果ガスの排出をゼロから逆算すると、これから先の10年は大きな変革を求められる10年になる。交野市でも市内の市民・事業者・行政がそれぞれの取組を強化していくことが必要だと考えられる。

「循環型社会」という言葉も近年よく使われるようになった。3Rの認識を深めることには始まり、近年では海洋プラスチックごみ問題や、プラスチックごみの削減、バイオマスプラスチックの導入促進、食品ロスの削減に向けての取組などが進められている。交野

市でも「プラスチックごみゼロ宣言」や「一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」の中で、家庭ごみや資源ごみの減量や、「ごみゼロの日」の取組などを行っている。交野市は人口や産業形態が類似している自治体と比較してひとり1日あたりのごみ排出量が少ない<sup>6</sup>という強みがある。これを維持しながら、現計画でも導入していた廃棄物関連の指標や、エコ生活分野での活動に加え、食品ロスやプラスチックごみ削減など新たな取り組みに挑戦することも可能だと思われる。

世界や国の動きも視野に入れながら、交野市で身近に感じる自然環境を大切にすることも市民にとっては重要なことである。自然環境分野での活動や、「交野の環境」などの環境調査で、市内の緑地、大気、河川環境やそこでの生物多様性の保全、また幅広い世代への環境教育などの啓発事業も継続して取り組むことが大切だと思われる。

---

<sup>6</sup> 本報告書 P5 参照